

龍溪先生全集

下



秋之部標目

七月

立秋

初辛

蜩

一葉

三丁

初嵐

百日紅

辛

孟月

辛

七夕

歸

一葉

辛

初嵐

花大

辛

木槿

木槿

立秋

辛

芒草

芒草

芒草

辛

雜以花

辛

西風

辛

西風

八朔

辛

三日月

稻

稻



栗

连宵

外事

秋雛

幻景

廿二

さひ鉢

廿三
十三振

松子

廿四丁

秋素

夜半

未枯

廿五

霜秋

廿六丁

木槭

茱萸

秋夕

廿六丁

西秋

九月
廿七

秋

木咏

秋山

毛枝

新子

秋夕

芋

菖

狗牙

夥

秋雨

南辛子

秋风

十一个

小锅引

放生会

初次

彷彿

月

十六夜

彦

秋日

秋分

葉山字

十七

鸣子

北辛

深水

麻

鴈

十七

砧

其辛

鸣子此芋

鶴

鶯鈴

十七

秋蝶

共十

本卦

卦卦

隔壁

十八

秋杖

九

本卦

卦卦

芦稿

十九

秋杖

七杖

色之麻

彩锦

彩酒

二十

秋杖

芭蕉

三辛

落水

菖

廿一

栗

过室

卦卦

卦卦

红桑

廿二

さひ鉢

十三叔

卦卦

卦卦

秋雛

廿三

未枯

机革

卦卦

卦卦

夜乍

廿四

霜秋

木械

卦卦

卦卦

茱萸

廿五

西秋

九月

卦卦

卦卦

秋夕

廿六

叢書類聚

秋部

青顧盧了輔

編輯

八采園寒松

刪定

立秋

七月

秋風悲心こおぬ
秋風悲心こおぬ

六窓

二三尺きり秋そよぎされ
菜けのいはハ一月の秋

故班象

秋まと同よきとしの秋
陵り草あたつやけさの秋

柳絮

秋立や落葉とおもむれ
けよれおもむれ

秋立や落葉とおもむれ
けよれおもむれ

長梧

蘭室

叶月

秋まくや井半と音のせ一此
故の是れ大事に考むやはる秋十六 大江丸
河主たつやひそにまれる仰乃雲 登之
ひましや月ものめよきよの秋 月巣
をく風の盡んとあすり年の故スカ 巴明
初白は深 みれのえりうな
毫せうくか波す 一葉の秋
え秋のたーとゆきすうけの秋 木羽
竹もやむく入てのりよ下毛 百鏡
岸の羽すすりとすくけさり秋 芦洲
芦の色はうにあきの向き

提國

散 柳

年のかれあもゆへるの秋
秋立小森のうのかよ男達
あち不のまふやす一葉うね
新さん一井の湯瓶よ茶小
彦子後風まいくに相いと紫
いづみれ雷もれとてまく柳
一日よからずまく柳うな
ち柳西の大きさ日も入ぬ
セタ寒降とかあらま世ト 七夕

楚水寥松蓼太吐月心李文蓼太吐月
嵐雪六窓

早会アマツシやあちにや秋の日を看

不騒

かわらはれととかくてせまー星雲

故班

象

いー人ヒトやとつくりの秋アキの夜ヨツサ兔陸

冰花

星雲セイウの月の拂入ハリナリりの夜ヨツサの月

蓼太

ひやすむと葉ハタケのさんふー一物

完未

さタサタめゑ枝ハタケの葉ハタケの葉ハタケの葉ハタケ

百卉

ものいもみのけモノイモミノケめやややう葉ハタケの葉ハタケの葉ハタケの葉ハタケ

露文

七夕セブンやよみがえり葉ハタケの葉ハタケの葉ハタケの葉ハタケ

蓼太

まおややよみがえり葉ハタケの葉ハタケの葉ハタケの葉ハタケ

雪

秋アキすーねよがれアキの月アキの月アキの月アキの月アキ

蓼太

かねてカネテときトキも天アメニ川

雪

男オトコすりまほアラシりくらアラシ机アラシの

立冬

静シタり橋アラシりくらアラシ月アラシ夜アラシト

寥松

きうれーやかもせはあよれアラシよ

山嘴

照アラシかくアラシ月アラシのちとすアラシかくアラシし

蓼太

日アラシくらアラシやほを處アラシるアラシ林アラシの岸アラシ

蓼太

娘アラシり名アラシりや扇アラシり扇アラシり

立冬

のうりや扇アラシり扇アラシり扇アラシり扇アラシり

寥松

花アラシ彦アラシす月アラシす月アラシす月アラシす月アラシす月アラシ

吐月

冬アラシや一被アラシもやきアラシ秋アラシ乃アラシ矣アラシ

慎車

木 槿

桔 梗

松 檉

枝わき太様 槿のこやし本様に
むくめ此日もせうあすけ木様に

彦をよ大活膚がる木様に

周竹
普成

蒲丈

鰐巢

蓼太

吐月

雪萬

故班

象

蓼太

完未

五舟

自かハ只山可トテ山の蝶

夕暮れのちもくとて秋山の

立カ月兼

秋つてさつ葉れハ秋もも

あきよ楓をばよすすみを

秋のてふるをすむ壁にと風

逆葉やまがすりててのてよ

ぬ縫縫み思ひてふ間の秋の聲

魂棚の霜ふ生え立つの字に

ぞす一 大に見れ何より總家

浦 さみ立たる増毛はア湖つて

夜よ入るとれ新事 総家

魂 榮

龜二
午心
秋左
晚長
寥松
盟鴟
嵐雪
六家
岷山
吐月

故班 象

梅奈代はよひのハーモニウム
槐柳や翠籠^{サクランボ}葉——細つまみ

ともかくもお森をの世や魂 紫

眉映 雪珊

る祀すすすも絶えぬたまむく
碧柳や翠籠つめてもまのをあ

の事のけいせいひまつ響 ふ

大江丸 夜鬼

いきを祝ふとくわきを紫

冰花 嵐雪

鳶柳や翠籠^{サカミ}葉——萬能

蓼太 麦由

月々緋人の影し魂^{スヒ}すと萬能

普成

槐柳や翠籠^{サカミ}葉——萬能

蓼太

玉扇^{タマフナ}の世の道里^{シテリ}山^{ヤマ}に至る

大江丸

柳柳や翠籠^{サカミ}葉——萬能

完来

いづくや月のやういとお乳はぬ

大江丸

盆月 募苗^{モウメイ}母はあくねや盆の月

尾張曉星

墓參

墓參旦

槐柳や翠籠^{サカミ}葉——萬能

大江丸

立春月のまことに葉や墓參^{モウセン}の月

大江丸

班象

山市

吐月

寥松

鬼秀

月巢

鄉音美

山幸

嵐雪

完来

歌白

燈籠

人の夢て後拂く門や盡の月
氣をもとぞとくおおれ盡の月
誰記念にぞ定んまの月
盡は月見にぞ書法ノ那
古事記思つぬ日や是方玉
毛毛毛毛秋の門の燈籠や
白骨せ切翁燈籠や故家
燈籠や故人は時づけや否

沙羅

白麻

一葉

連火

麦面

蘿太

咲日

大に丸

もー

火盆で二十日ハ休す
ところや消す火等を人の如
都より以て家みはまき燈籠ノ
甚すとぞ新の燈籠ノ
おくと秋毛のあそび
燈籠や月夜がけりゆるい
うのつらあきねよお火盆^{火盆}水衣
燈籠や毛とぞたのゆのあ
きてう遠まはるやうが
まうゆ中風の下ふねねうか
かあ夜未と差をよきあかの声

君の細毛と浦や益乃同
謂あつて松河もれくの月の角
よせうすい寒所と益の月

班山市

吐月

寥松

鬼秀

月巢

鄉音美

山幸

嵐雪

完未

歌白

燈籠

益の月見によく書法の那
左手の足の月や益の月
益の月見と益の月の益の月
白骨は切翁姓姓也わは家
姓翁で故人け時比也益

火鉢や三十日ハ時よ

白麻

一深

子共

連丈

麦而

水衣

益のつるあきね上朝被笠益のつるあきね上朝被笠

益のつるあきね上朝被笠

益のつるあきね上朝被笠

む

かあ後起と走を出で却の声

大に九

年ん

班象

普福

夜夢不了却の事をまことかに
ねう枝うかげて放つやる事のせ
咲きの地をまかまぬか一へす

吐月

指月

故班象

も一はや今年もううありも
瞬にまゆの細一むの身

お思ひ

十曉

も入も出もあせひ一もまよ

寒松

黄か青又黄かとあを吟す枝の身

豪山

か一葉に又あらじ事もあらうと

春我

ゆのあらがふもあれうと在り

普成

さりくす、おゆゆや壁ゆくとまりくす

宿房

冬す草す、春す、夏す、秋す、冬す

夷守

啼す子す、あわの涙す、あわの涙

葉玉

ことむりてもかぬ布を機

六毛

曉の音せりあやでまくもくも

叶玉

まよふすとまよふす壁かと機

止ぬ

機ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

木中ト

うううううううううううう

人左

えんわうやあはくめや赤せん

葉玉

情吟

時計

きりくす

宿房
夷守
葉玉
六毛
叶玉
止ぬ
木中ト
人左
葉玉
吐月

葉玉
吐月

踊

穀

せんほくやかくされひるのあ
林風に人ありあり踊トト
子を林にゆきとゆきとおもふ
雪丸

舞衣

踊ねむ都の月夜ト年よし

萬人

踊る中も食つ通す深世^か那^チ佛^ハ心^ム
踊る事^ムに済何^シ益^シ踊

年

踊る事^ムあよびく^シ踊^シアキ

大江丸

相撲

相撲

角力^ム争^フ角^シ角^シ角^シ或^シ

角力

角力^ム争^フ角^シ角^シ角^シ或^シ

角力

角力^ム争^フ角^シ角^シ角^シ或^シ

角力

先きうとおとすとけん角力石

秋色

黒^シ代^シの木^シあぢれ角力^シ

方壺

岩松^ム母^ムあ^シやね角力^シ

牛雀

角力^ム争^フ角^シ角^シ角^シ或^シ

吐月

投^シまて大き^シあゆまゆひ^シ

連大

十ハ^シき^ケハ^アヤ^シ角力^シ

六窓

被^シま^シよ^シれ^シ角^シ角^シ

其道

豊角^ムあよ^シ轟^シ角力^シ

白麻

角力^ム食^シ年日^シ十倍^シ

大江丸

三十^シ一^シ角^シ角力^シ

格泉

東^シ合^シ角^シ角力^シ

冬翠

稻妻

夏すに角力をあわてて

稻妻やあさがくと海波山

吏登

葵太

完来

三上

糸鶴

故班象

長悟

ルサ董

班象

理牛

西翁

いよつてや松林をもきの湖
橋つまや松林あき村つま
いよつてや松つじゆふ宮の橋
城の圍に稻妻かふ朝陽に
約人乃ふまつま方に寄りの紫
おきりやあらむにたる墓ふ
川寄方にねり上は月赤に
おきりやまよ附く小拂

治

ル董

完来

翠松

鶴里

翠羽

寺播

可風

嵐雪

蓼太

白麻

翁

約キりやめり起たる星立ち
寄は月夜店乃經承幸り
山きりや障子障り松の門
約キりや障子障り山の門
約キりや障子障り川の門
約キりや障子障り約キり中
約キりや松林をもきの湖
約キりや松林あき村つま
おきりやまよ附く小拂

治ル董

あらんと汝芳ノ如モ一枚アハ 梧泉
おもてもく さち代小松原 普成

阿リサセキシナシテハヨリモ

吐月

白やがふとよとこよととよとよとよ

洛

蝶夢

森のゆはせはせよあるあひ

冰花

伐ト中不枝了山河ト高枝林

寒松

障あねかきよ西や林のくわ

三年彦

參すやうよめりおのくわをわ

蓼太

園すよと持くわをわ大ト都

深松

おえりおのほくわをわをさ外

子魚

花大

女郎花

老の秋氣花大不退(レリ)
さもほしめ方や秋毎の花モ大
あよだすおおきき林一女郎花
きく(一)豊(二)リリ(三)ハ
これぞハキナタモ「一」をも
花を瘦(ヒカヒタ)ヒタツ叶(ハ)キ
嫁の國や女郎花(ハキナタツ)ハ
よ(ヒカヒタ)ハ(ヒカヒタ)ハ(ヒカヒタ)
おもひすす松風(ハ)ヒタムサウ花
星かくは源(ハ)ヒタムサウ花(ハ)

スルカ

龜流

蓼松 菩薩 太雅 吐月 班象 嵴亭
至北 大江丸 褶束

而止しや中の食わるを

寥松

をもあ一淋きちにわに

翠兒

せうやむ松林ももむらに

桺沢

こほもぬも又名其をも

升古

峰スあきれる人あたまのせ

蓼太

若菜のせやみよもくと月お

乳峰

馬車内外の宿と白い

カナリ

茶葉の香やおぬ心をもひ来る

雪武

四阿子の葉向ふ馬車の匂ひのあ

得魚

茶葉の香や廻あ廊の搖すノ音

千慮

日乃か一才す仰あう茶のちも

來之

瓢

牛タシ一枝短一茶はを
くくとすの河とく

松欣
蓼太
月巢

湖一木は後ゆくとく枝瓢

月巢

葉もつもふくと木と茶ひ

下経

れかくとあハテヌカクうね

巴蓼

る生を育てて蔓のつれ

吐月

蔓ひも大膳ふくく新玉

富川

袖のと林涼秋を出てゆる

完来

萩

多義り拂事あをがへすと
きこせは紀中アリ右の森

如水船

義をもて色が匂のゆうト

月巢

さすやに神像ひづり義乃宿

素雄

湯すむ旅人す一義のす

一筆坊

けちく旅日あすや義乃宿

寥松

義をや草木がり西村家

下緒

満良

曉はぬほめやたまの家

杏扇

い人の朝をうれの極相ト

蒼虬

義をや松もおもひよーき

蓼太

義をやせうれをよひよーき

魚役

義をの義子義とよひよーき

夜鬼

義をの義子義とよひよーき

古調

おうわふ佛店寺は義毛ト

完東

義毛やゆ少の後り流毛

月

毛とよまつて一義毛は

秋

義毛とよまつて一義毛は

月

義毛とよまつて一義毛は

秋

義毛とよまつて一義毛は

月

義毛とよまつて一義毛は

秋

義毛とよまつて一義毛は

月

義毛とよまつて一義毛は

秋

義にて色が匂のうへト

月果

さやに神をひく義乃席

素雄

湯かわらんや萬一義のまか

一筆坊

けよも御日はすや義かせ

下経

寥松

義かや重みあらむ西村家

満良

曉けぬすめやたまの家

杏麻

り人の新さうめの極相ト

蒼虬

義かや林とねうほまれと

蓼太

義かやせもせかせはまーき

魚没

義の葉よ花よすのあ

夜兔

義かやお馬記とおまゆ

古調

義かや佛出事れ株毛ト

完來

義かや少の泣り絶き以

月す

義かや夫ていのむづろ月

木橘

義かやまつり一きよほり

月草

義かやまつり一きよほり

木橘

義かや化支盛にまぐ

月草

義かやめ石に泉の石を

加賀

希因

義かや行處あるを圖お

百里

あさう水やさう水よつけ傳ます

連文

芭舞

雞頭花

葦やうららかあれまくらむ
あめのわざとて便きとゆる

女扇賀

蘭室

すく夏の心ちくいひや草木敷

故班衆

嵐電

葉絞珍は葉絞へ緑に差ひそ

采袖

能ひそちた接處が餘す竿

采袖

子と枝ねえ人と似て葉絞珍

莫桂

新郎の如く傳て倒れぬ

莫桂

あく滿ち日ハ砂み月華葉絞珍

布良

おのづをもてのつて西風小

嵐雪

風はれをとこな先に西風うや

大窓

葉斗付よ草をぬり西風ト

寒房

西風

口上のうちせうほ」西風うや

學宿

八朔

ハモセ扇さだよ小石姓

蓼太

ハ朔せ山田伊丹北日祐酒

完未

ハモセ扇さだよ小石姓

倉鼠

さと月せ山田伊丹北日祐酒

寥松

夕風の聲も萬に翁むる

歌白

千穂の聲も萬に翁むる

吐月

人り岸も萬に翁むる

雪珊瑚

稻

三日月

八月

學宿

確乎稻せんちかく一叶ちくい

玉宇

口上のうちもこうほく西山の事

墨宿

八月

八朔

ハモセ扇さへた。小石壁
ハ朔セ此田伊舟セ日結酒

ハモセ扇さへた。めり梅の香

三日月

稻

ヒリ月セナリれた。扇は満月不
夕風の聲も萬は稻む。ろ

干稻の聲も萬は稻む。石は不

足人り葉もあざれいねのを

しき稻セ人り行耳む。も

確乎稻もかか一枝ちゆ

玉宇

雪珊瑚

歌白吐月

蓼太

寥松

倉鼠

完未

蓼太

左たり楠の中川

伯瑩

寥松

乙児

吐月

普雅

投丸

普成

躊躇江

喜曉

寥松

凡子

青雨

吐月

寥松

喜曉

嵐雪

吐月

寥松

宜麥

ト水

渡多

捺多

木啄鳥

秋山

花野

さゝ波の地もあらせぬの秋
むつすや楠刈翁にては嘯て
淋一きと薪いろも田面ト
大井川トもて越えしの林
をもとめひの楠も葉の赤い
やまかずも波して浅見山
をくらり冲音を響けりも
即ちも風音よみ波くも
十日程時々もゆやくも
山の陽に捺多は春二日月

木つとの生目とたゞに梢に
木家多モ斯ミテトモは
蓬隨木をもむれども多ウ山
秋の山もあらくよきもき玉
枝あれどほく手を何うむる
れり山ももくかくもり
雪もくはせよまうよ古社ト
追引子ねハ峰もうよ花野小
ひと色ふ心ともあらずをせ
瞬子よおみんかをすぞせ
桔梗も指打もあらむむのあ

橋又木立山田よりの花せり 文足

同巢

果物と木がふき風と花せり

同巢

草木の木日かくやまくをせり

下サ

寥松

おつしも木すら猪あすをせりのれ
もくの川浦くま耳もせり

柳美

人充

不登木小火多木叶きよ木をせり

つるくとりたれあるお雪ト

節句

枝木木れ日月木ほほやまほのを

蓼太

吐同

ちも木木く付くと木木叶木木を

班象

ひあら乃日術木トト木木の花
何木木木木後木木子んか木木木は

毫末

秋水

新木はせせぬ木候木精木高木

蓼太

文足

彩木暮木あ乃八月十五日

芳里

骨木打木移木沉木落木秋木水

雷堂

利刀木にあて木落木落木よれ木水

三鵠

魚汝

五尺木落木よれ木水

梅堂

横木の滑木うけ木水

桂

矢木を落木落木水

寒松

木葉木の木一セ木木草木北壳

百里

菖

みせで休まひ心外

蓼太

狗牽

狗牽や日やけて甲斐の黒男

蓼太

鵝

我社とひきつるひぬ鵠遠
絶情せ枝井奈行舟新

仙葉

竹春

竹春行跡梅も休の去

葛叟

秋雨

秋雨の思ひ出すハ隣居の郎

蓼太

佐馬きて経りおりそ林の鳥
秋もやえあ達ひ一

蓼太

蕃椒

きみよよりよのナリヤ秋の山
秋もやきく晴れ山は山 漁舟
のきみよもくくに一叶舟ナリ素迪
仰拝比坐庵ある候一叶舟
皆坐てましめくあら舟亭子 せす
はくくくね教せられ前から
一畠人おさんへたまうのト
三ツやねそひつ處すや蕃椒 全
おまくに下むせひてて晴轉
転きだ首ちやうじふく 小
暖も秋ハセハキシムコト

吐月

秋風

くじけのそよみせす 鶴少
嘆うづ橋本をきかぬ故る
波打たせつま無むかひ難外

祇ト

白醉
乙兒

松の心義経の肩からり

あまゆやおもて波にま船行帆

斧以みよ松風さざる桂葉少

松風や松風も萬の心をもて

賜め落とすれ松の雪

猪垣よまい樅根をあませ風

人もよまゆの落せ松りとせ

出水投茶
心祇
寥松
達岸

更登
吐月
馬効

重くいづきをいは峰や松の心
強めて帆のうりに生れ松の風
秋風やねまくまく吹け沙泡
松風や日ふ向うり砂川至
みよけや萬の落す松の風
あれひき一筋きしむ松の風
うき風や柱たうり走りの風
今歯うゑひくとせ松の風
乞はは涉すかほし秋の風
秋風以都すまく吹きほどの聲

久能阿
完来
午吹
素迪
梅人
虚舟
深松
故流
馬耳
雁赤
州石

桃祖

雪貫

蠻布

普成

老阿

天府

蓼太

全

不騫

柳繁

人

鳴
風

大江九
吐月

臥

秋鬼

虫岐年

宜麥

寒松

玉兔

至北

菅稚

同裏

小鶲引

放生會

卦音

初故

鳴多事後も有り男ノ物
立候子略トモ都モテナド
鳴ノ細ナキ事ニ黒ヌケリト
萬事生チヨ重ん略ムヒタ
久之經の事ニ重ん前は鳴
小鶲セ定器のちぬ庫の枯
鶲實幸ノセ屋原モそれ否
人中詠用シル者も放生會
経生ムモトモ有事アレハ
大河口セ鳥のまゝ杭乃上

待宵

月

まづ月もすくに暮れし
待宵や坐ひてはるは
あよひやすすめかゆの月
従事や従事も一晩に月
まづ月やいと揮てはる月
まづ月やせうなづけく爲事
ちゆや柳の枝をさくゆく
みゆやまう遠り水川上
心の様様とむかむと

蓼太

故班衆

阿人

吐月

午心

嵐雪

麥雨

更燈

全

蓼太

宜斐

沙羅

深松

普成

周巢

六窓

方壺

文足

眉山の月はすくに秋のそ
く角の生れかはるはる月松
の月や次よやくよよあきかみ
の月やまきまきの月さち
の月やまきまきの月の月
名月や尋ねたまふかの月
の月やうなづむかの月
名月やうなづむかの月
方壺文足の川

四月やあまく代くのあまく
翁角や沖ニ朱橋紅郎せ
名角やもとす監さくおはう
四角やナホリハ清れ舞
四角や橋を廻すト松の音
名角や時まの後ろまよ卦
名角や吹ききよこの東音
四角や大部をすす清れ音
四角や闇くろ音す松の音
かい青川やおまよあらつまよ音
名角や鐘を鳴ら風かづより

婆城
月泉
吐月
魚沒
宣麥
午心
班象
普成
祇川
蒼狼
蓼太

中秋や日暮くま下月抱す
明月やいづれ闇に人の音
名月や老ニ森立葉らし
四角や老ハラシれぬりけむし
いき碎すら四ツよだんの音
うは月人乃西をくま下月
持手ほせうちくら音ひの月
暁えのあすとくら音ひの月
隈あよし秋の解こりふぢ月

おや秋やあら八月よあまと秋也
ひよあたれに月をせり重ね秋角

寥松

大名ちき月をす人合羽絃

馬耳

美みくらじに夜あまの月

月巢

一輪せ月にりらんを乃汝

吐月

とくせは休まゆけりふ宵

青橘

重きも與も今宵や月の本

支母

用の有川れたり秋の月

未光

都古と古事にはまれ秋の月

沙羅

而は月とすも危て却れい

蛟牛

世のものとすも空かく匂ひ

管雅

山事すすせハよ斜の月おど

楚岸

えのとむれむれもすの月のそ

白騎

いきやむの闇くろあまの暮のそ

蓼太

ナム夜やまの月を客を亭を望

吐月

たうおとせまをくもてゆくら

金鶩

いさやりやまむくもてゆくら

故班象

お川一二里は体もやまとき

嵐雪

峰ゆふゆゆゆゆゆゆゆゆ

全

花あまきあんほのくとゆま

吏登

すかハルからくとも苦たる

青牛

花あまきあんほのくとゆま

馬光

長梧

吐月

寥松

魚泣

相翠

素夕

蓮伍

大江丸

葆光

春鳥

名雄擣

蓼太

蒼虬

故六

牛肺

午心

千林

寥松

故六

玉桂

艸阜

蓼太

秋日

野分

松の根に根より昔この事
花もまき初の春を以つて
時より宮乃町北山の花房
あはすつももりつもりつ若く
秋のりやまとせよく民の業
あまびや根をかせえりあ
れのりやまくもあはづる山
松のりや人あめにあく鳥
二物のりやまくもあはづる山
松のりやまくもあはづる山

月守

文牛

白麻

吐月

蝶羅

故班象

文宋

木芝

宿兔

六窓

案山子

林日

の鳥斤羽ヨリモセシキホホ
モホノサカシモテ降本ト
吹れて游の本傳ホサシト
今朝も大糸の仕事のせもや
大佛を曳うてかくすせうもマハリ
人ら地つゝや紗の縫部ツツト
あは系色を若葉の枝ハサヒト
葉の實に吹あふかせう船
人生よやすの主ハシメト
筆者シラフあはれハシメト
今朝も大糸の仕事のせもや
ホホノサカシモテ降本ト
百疋ハチイうちハコアリて案山もも
ち原ハラトきり海シマアリテヤドウ那
タ多ハシメのほん限ハシメアリカト
不細工ハシメいぐく麻ハシメト
圓ハシメ兩ハシメ中ハシメ菜山子ハシメ
傍ハシメ菜を新若ハシメト
加茂川ハシメの水も走ハシメト
あはれをほらす都ハシメト
十日ハシメとみて下ハシメれも案山子ハシメ
秋風ハシメのあはれハシメト

案山子
林日
吐月
文牛
白麻
蝶羅
故班象
文宋
木芝
宿兔
六窓
月守
文牛
白麻
吐月
蝶羅
故班象
文宋
木芝
宿兔
六窓

鳴子

おととみて遣すくまきかへり
をのる田ハ賣てまう田すく

雪月

獨ぬけの毛ひうあたるゆすうあ

更登

川あけて村の自れやゆゑの隠

幕葉ち

家の毛に使ひてあすゆすう

毎外

五十より上手すすすめ写す

吐月

索支すふ數せむほん写す

年ん

曳てやをふも何うき写す

梅仙

あおぐねの写す

雪窓

鳴子川くみに海すくらむ

望月

流水

鹿

葉左

移ふ小兒持て水のりあと

吐月

川板屋も園ふ照のりる写す

幕葉左

彌まく御衣アふありう惹のう

更登

うねあわの争すあきけ麻のあ

幕葉左

薦きけた跡すく古井守すぬ少

エヌ

葉左

麻笛を都の人にはすすむ歌

金井

あや合せ笛を筆と筆と寫す

周竹

舞笛れ鹿よこうねく奈あ

言表

いちらしもあはる峰の麻

同葉

吹きすも高鳥秋月や蕊の舞

上サ

射集

松山やまよ中より、麻の聲

あくづみどふ本とけり、麻の聲

戸をさへて遠ふせん、麻の聲

スルカ

若のあらうしろあくす、月がお全

小田若のあくす、月がお全

鷹

いつのうちに來て附了す、小田若
ニ羽くとかきく、鷹一石いふ
一石をうるはひ、田代く、四石をう
をうるはせ、月はせり、一石
遠山をぐちかき、一石乃處
さむさく、画もとをちやるは、一石

吏登
蓼太
青橘
星衣
吐月
蓼化

莎堂
蝶夢
雷堂
牧丸

歌白
月巢
洗水
完來
石髮
寥松
吐月
蓼太

玉門と風も阿ハサノアノ一

蓼太

宇木のいづつたるかくおひる

カハサ

洗耳

病ノや吹毛毛でそ一羽

スルカ

雪堂

レのサノアノハ抹癒毛精のいづ

京花

軟石

稻牛

柳莊

柳葉子松乃す峰の高木

班象

大は山の山にアノ群

信中

柳莊

寥松

アリヤシヤシモト松乃立一色
原木ノヤヒモト松乃立一色
原木ノヤヒモト松乃立一色

撫琴

午心

酒ノ广我後打子ねいづか

双鳴

大川ノヤヒモト松乃立人
すく原木松ノ仲ニキモト松
原木ノヤヒモト松乃立止

牛毛
歎支
可月

鶴鶴

まぬみ

鶴鶴セ屋子の在候也

都重

同弓から月乃解セ小板砧
極ノレノ高木二らノ小板砧

錦衣

毛さゆき、蝶衣位りさよまゆ

是物

獨りつ不日、月津きぬいの赤

吐月

衣うつ陽邊傍ぢ女う那

完束

風すりへおとろきやすき砧ハシナ

子文

かくとま歌てありぬ小夜砧

夜兎

里人の涙泉ミツタケ耳て後アヒセ小夜砧

午心

思故ノシメは都シテの夜ヨクきぬと少

不騫

ゆつまの里トモリあらた家砧ハシナ

寥松

ゆふくしん月カムツのかく衣

蚊牛

安ハシナをけいふめくやれり

其由

近ハシナお孫コノ小夜砧ハシナ

全

をき里ハシナ都シテの耳アヒ小夜砧ハシナ

生

松ハシナ月尾シテ上アヒ砧ハシナえり

虛舟

揃ハシナハ砧ハシナ都シテおりん

文足

あやれハシナ月カムツせき小夜砧ハシナ

露澄

あやうて盛ハシナの氣アヒねうち

不騫

うちゆけハシナ洩ハシナ月カムツ也ハシナ

達琴

そせゑハシナ木ハシナおづらもハシナ小夜砧ハシナ

木丈

手ハシナほむ葉ハシナの毛ハシナや小夜ハシナ

普成

象ハシナ森ハシナの里トモリあさよ

月棠

しきやゆハシナてめりてもひし

吐月

菅雅

生

方壺
吐月
鑿太
即娥
寧松
完來

攀松

班翁

つるわくすき
さくまくはな
うきかくはな
ひのいはな
よしむらはな
せんじはな
とねりはな
まきはな

物語人抄

芦の花

鳥風

靈龜

帰境

芦穂

秋聲

竹林

老柏

梅雨

詠柳

急風

九月

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

年心

秋聲

秋竹

秋葉

秋雲

秋水

秋村

秋丈

秋雲

桃鏡

松欣

新綿

新酒

菊

毛のぬ松山の生木奈良は東
日吉友小一月毛峰の松
里ハ今強あらしき日和少
まいとの揚ぬ木まきあ孫五
水と一新酒ハ人乃醉やまき
凝るん新酒の泡よちよれを
おと酒園毛ハくまめあり
そそぎ東毛毛きく外の冬夜は
菊はや八日不病て持よる於
毛毛や毛打人毛人乃墓
毛毛や毛打人毛人毛人毛毛毛

天肩
蓼太

吏登

了浦

嵐雪

寒松

吐月

蓼太

桃鏡

青牛

人左

方壺

阿沙

雪珊

人羅

兆北

一鷺

月巢

了浦

葉山の酒呑毛ひりは新光
毛の酒山毛もて不角毛三茶の毛
毛球足毛球毛毛一毛毛毛
毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛
同一日毛峰毛毛毛毛毛毛
毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛
毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛
毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛
毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛
大勝毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛
投す毛謀乃き久毛以せう

開仰ほくし葉ふ吸葉の流ト

人左

か一叶一と写すつまひきの花

月巢

あきやふきを津す秋もホー

文母

り先よ竹子の左や葉のちも

百貢

あきや葉すをもつくりへ

鬼秀

地をあけぬあり葉の花

鷺川

育すもあわせ三季めあート

兔洲

春の葉すれあきやまくせむ

牛

とく次も葉内かびう葉の花

頓吾

きの葉すれあきやまくせむ

雪萬

あきやまくせむ

虛舟

詩本

班象

きくいろくものふに處り

宜麥

ゆくねく小松うちめせ葉す

寒松

捨候の葉すれあきやまくせむ

夷門

旅もくぬ人のねあきやまくせむ

百里

りよまよ仙主處端乃向天ノ御

周竹

詩をつくお妾おりあきやまくせむ

大江丸

壁すも月日ハ逃げきく烟

北魚

白え葉の色ふあよまで惜れり

宝来

きくはや寄り煙の風よし

路雪

芭蕉

凌子とよとくまをせせト
あわててあはきむかきとつま
ゆすむけよ刻る芭蕉の歌
をせせ葉や世を人波きく風の音
出山の衣に似たり破を義
呼ふ高きて又させ城の音
芭翁くすさをぬ破を義
帆のうらぬあはせせおとお

そよよよよよよよよよよよよよ

落水

蓼太

蝶夢

文足

草石

午心

普成

三思

蓼太

青播

菖蒲

羽のちい日出長闊に菖蒲の
花一水是や松もかくふきぬ
吹れきの木を投捨て落りぬ
菖蒲も黒い衣、浦門路

秋杵

まく

吏登

羨玉

女須美

銀佛

吐月

夜鬼

嵐雪

吏毛

ちゆ村は志川を秋を送り

のり旅宿林にさく人へ詠

神さへてうるぬ山や菖蒲

のり旅宿林にさく人へ詠

柿 雪

柿

栗

まつ葉す時々々々柿は木まつ
落柿よりよもじり鳥ふあ
いうちやまにまける法の場
作磨生と燒栗をすの小舟ば
人あくはみかねり栗せ越
庵うりせ子供うるる油漬
達室を仰ぐ時代の風景

蓼木

二柳

嵐雪

月守

午心

月窓

沙羅

辻宮

音辨

松風やくさ強まる林の声

雪漁

秋離

夕は秋は年は暮れ后の聲

午心

紅葉

花一枚折物りとも秋の絵

雪守

花調

蓼太

人あーけゆきあかともち

山あくすらやこてもみ葉

子與

やく木乃枯をさあてみ葉

か入木色はうあよともち

沙羅

いつたむらあき山う絵

いのすりあうつぐうえも

山幸

一山のむほまつてみちも

うもくに度へゆきやクお葉

春蟻

いつたむらあき山う絵

いのすりあうつぐうえも

普成

人の居る六畳をもとあわ

うまむね相手をもはあ葉

故流

得魚

うまむね相手をもはあ葉

歌白

漸き春よ近ねるきもみちや

一詠

妻本つむ里人ちまくわくちや

白麻

湯外へいつくれるかみま

婆心

お島とむらまくわくれをゆく

深松

まむち草やじろめがたうへに

富屋

かみち色よきみの西

山車

う散て日ひ取すもくち

完来

停門ちる人そえそいをも

宜麦

砂をも構すくまびらも

繁松

久をむ照せはゆく陽士お部

意長

細ひよ散て門やまくひま事

ト水

むわくひまくへくもみちや

叶月

橋河とあまお川ヤタメみ葉

年心

風もよ隣子さりえをみち

枝垂

あわすはぬ葉の中はぬ葉

夜鬼

かきくまくまく遙聞すもみち

大に丸

河くよの土よ写むむきちや

沙羅

あまくよ船よむりよもと里よ

嵐雪

かいよきよ船よ船の下よみち

天府

船はくよ流すへおへまち

山松

茅船かせや見くくみ乃をよき
子代女

月巣

吐月

待めし月の先にナニホ
かくぬる水やほまん后月
うほくふく秋や後月
后の月よナタと聲かへ
賓もももをほく月は名稱ト
いきばは日暮月は月
空の鷺のせ鳥は後角
拂ひ度す賓も月は月
下戸へ來の扇の風や后の月
幅つぬ心よ狂何のち月
月もも危も月ナニ候

不思

夷門

花明

蓼太

參松

沙羅

普成

卓花

宣来

柚味噌

普成

蓼太

全

普成

蓼太

歌女

寥松

北阜

普成

萬鈴

人左

秋霜

普成

蓼太

全

普成

蓼太

歌女

寥松

北阜

普成

夜寒

ねすすり機がとう后の月
禍ひけて星れのち月
左何トヤ左の柚味噌も机ど
机の心轉く柚みど那
柚みどや淋一ノ女よす
秋葉や落の中くされ
つぐくと狂めり人や秋の末
四十ノ匂のくわふ夜
細布六里くゆて夜もしの御
宿主ふう闇に絆つてねすす
あまた丈三幕毛の机ども

蓼太

完来

亀二

吐月

三駄

夷門

時明

寥松

普成

柏

本うひまよ苦大のむきふ
洞樋を承乃るれむねをふ
附のぬよ禁火けくす薪きふ
り煙く様の孫にあすれきふ
糊もれもあはてねさむ少
病く袖子あがくらむ極きふ
漫月に苦大をすきて極きふ
大根の風情きくすむ極きふ
漏ち底極よほす極きふ
極きまや手面了極きに十
行宣は拂ひの業もむきふ

赤桔

蓼太

姫久

吐月

葵葉

辛心

本禪

京花

ひす人

木蒸

新秋

村珠

木奴

登吏

班象

象春

月ふふと秋の不開の都

秋虎

ト六
七月也
追テ
可改

あゝやまは花をそよぐや秋の富士
木原も通うひそむけ秋のす
秋さむいほゝおまよはたぬせと
賣人へそそぎて人せり酒酒
つと入
本賊
菜黃
秋夕

あゝやまは花をそよぐや秋の富士
木原も通うひそむけ秋のす
秋さむいほゝおまよはたぬせと
賣人へそそぎて人せり酒酒
つと入
本賊
菜黃
秋夕

秋のうれあるちはなーとあひり
こちう向に三時八分—秋のれ
老駄よおゆくうり秋の夕
絶えぬはるかうふくやねりも
きあくよみのうめあきの夕
足立山よあまくはるまほ秋の夕
伊達
魚をひて笠を立ちぬれり夕
刀帯もた掃く人やあわの音
安藤の浦よくあー阿波のうき
雁路
入ねとつづらふれのくもく

翠心
蕪村
班石
月嘯
水鷄
伊達
竹富
蓼太
拾翠
木羽

秋のうへる山ちが津のなは
遙向は一里くわまむる
津つまに川下もむか林の名
林かられ女房のはうだ竹子
いのよし詠よほひ林の木を
タモ木林の木を木が木
門の木の角やあきの木
是の木の木の木の木の木
木の木の木の木の木の木
林の木の木の木の木の木
木の木の木の木の木の木

嵐雪
蓼太
魯州
冰花
月蕭
叶月
秋良
蓼生
天祐施
蓼松
故班象

山津かまく林林りり
林かられ木林の木林の木
あはれ木林の木林の木
木林の木林の木林の木
あはれ木林の木林の木
難易けふ都木林の木
行旅人まづ木林の木
木林の木林の木林の木
林の木林の木林の木林の木
林の木林の木林の木林の木

天祐
月夜
眠石
月窟
帰景
故六
普成
信支
皆雅
蓼太

行秋

中納言連とまいりあもとも
り秋せらむとまにほりり

不寒

吐月

り秋せもくをそぞるたはる天
ゆゑ族や小田沼月て山ひれ
り秋や今すすめかくもち
じ秋や空のじうり菜大根
り秋にゆくよあくに薑椒
ゆゑ秋や空くも通す秋の匂ひ
船橋で秋えりと立上川
松村も立春かくらの蟹の案
度のゆづれおのづれの事

吏登

歌白

竹條

富屋

桃壺

南羅

宿兔

订兩

翠兄

九月盡

もれよて門を人やまの秋
かきや秋のいは秋をゆく
砧をきはくへ秋のりあい
山移せ一川風を一九月を
跡の航のいはくわく一九月を
夕れを集て九月晦日う耶
何處ふくを九月三日は夜
油灯のまづきとあく九月を
あくにあくみ都の九月を

枝直
素迪
乙兒
連丈
桃祖
木羽
素迪
丈河
完来

卷之三 部 摂 同

口切 炉閑 旨燈 四 火桶 劝冬 時雨 冬日 三 妻措
歲時

歲時

石路花 批杷花 山茶花 達忘 忆十夜 小春

清吟講 八 芙講 沙西越 今牡丹 備花

落葉九 風野參野 外枯

寒帽 十一 棘 等 何銀魚 俊與引 散紅葉

綱代守 十二 蓋紫茶漬 游漢頭巾 久戎

水弓 十三 海風 大根引 十四 七善

冬月 李 神每月李 冬田

枯芦 枯柳

干菜 紙衣 納豆 大

大日

十一月

霜 冬至 嘉丁 茶食

腊羹

辛 鷦鷯

玄橘 暖鳥

水仙

鷹狩

癸酉

鍊

希元

冬暖

壬辰

辛垢離

鞋冬

鰐羹

癸未

雪

霰震

祚乐

癸未

十二月

壬亥 十寒声 癸子 玄念松

臘八

佛名

細豆粥

李排

癸丁 年市

衣砧

年忘

餅

辛亥

癸丁 年市

大晦日

癸年 世一

固之

和布刈

癸未

宝瓶

年尾溫交

雜部

散句類取水

十月

時雨

之づけ日の重ひに時雨
松木の松木に也初一ノ
葉落とし葉吹き葉落とし
又立と葉落と葉落と
夕立と葉落と葉落と
二年や北山一ノ竹乃用
沙羅
目守

宇平

完来

大江九

午心

仙菜

雨松

寥松

菊盤

蓼太

荪笠

春艸

波光

連大

也有

送契

文鱗

六客

吐月

銀耳

成義

いふ一の時あんせんかくひとう松
雪や來了又あれり夕の那
まくらと宿すを便に御門西
是よあはる所已せゆうれ
降りて松をたれぬ雪而リサ
詠すと淋れせざれ
暮更のあいづる時せうが
却おとく歌を詠す被ふ山山下サ
里落きす事も漏れす付西雲
是も書かれて志士が居
詠すて書く事も入日高

小夜もつ時山川在地待る翁

笑ふや細身の身を

日

川上氏

不白

月巢

眉山

蓼太

蚊牛

護物

蓮佐

素迪

四明

隼

柏雅

葉太

史參

夕篆

斗南

柳繁

菅雅

梅壺

源吉

西山をあちかへて降りゆく日
にいきりいきぬ老をもつてゐる
はまむまむまむまむまむまむ
何人の旅々徒々をかねしる
神のまこと休むやうにゆるが
移のまゆふまゆて一ノれり
あすあやめにてゆむはーら西昌王
鶯籠カサせよゆ入ーくわく
一ノれゆひゆふせてまゆむせ
父アツしきて心を寄やまとアケ
いはれとおとせとせとせとせとせとせ

冬日

時

五

五

玄猪

某二年小秋、右のまつすい

蓼太
吐月

麦葛

荷りかむをひとせもたるま

完来
蓼太

口切

にまうや海苔は價とく餘

吐月
蓼太

にかせふの何とく密とく

素丸
蓼太

ひまうやまう都とくがのれ

味
蓼太

にまうやじとく算とく山とく

毛丸
蓼太

にまうやじとく算とく山とく

毛丸
蓼太

巨椎

大歴

蓼太

極手所通くもの巨椎り手
主事處てかの壁を立つて引け
山を立てるが、立てて立てて巨椎に
夏まきの寝て寝てはまうる

大歴
蓼太
故株當
西涼

あせれも立てて立てて立てて

仰せぬ始て立てて立てて立てて

伸き立てて立てて立てて立てて

巨椎立てて立てて立てて立てて

千牛

聖川

跡印て医者のあらひをひり

ササ

猫ひづ入て四睡のこどもが
そぞる終つ世ふしきむく巨體ト
一牛征きぬよて二三日ト
馬代ハ前まづとて巨體ト
おじいとてあらうの巨體ト
不思議を喰はせん旅とて
終まきとて居候よてりト
こゑゆか左女の中か大桶と
お経のや大桶小波一海翻
大桶

ニ柳

秋月

桑松

月菜

栗考

月豆

桑葉

月豆

柳

秋月

坤土行あけたゞ大桶ト那
健ふも無事玉ねて大桶と抱ひ
むへゝせせと大桶を抱ひ
日の下よだめぬと拂ト桶大桶
よき在はぬ生了経セ桶大桶
思ふすよにさともまう大桶
移う訴すまちをけりか
まく人よと拂ト一太桶 小
後あらうて岩ほ山の太鉢ト
えすよひて文子相大桶

本語

年心

吟月

大江丸

埋木

居候生て岩すねむ大津川
郭毎朝りしま大津川
うしよやはよ心の左反右
却ちやは身たづねつて罷
らうおやゑぬんはゑひよ
却ちやは謀もとよろひ
至る所で落すて岩を碎く
岩窓やりて残りて木の枝
花多き處へ拂 岩の枝
は山采や又茎ひちづ群く
白鹿て草と木の草く

山

故明季
百里
園阿
人左
菜木
月
牛
木奴

布画

金龜

岩を下れあま里へ廻り
もねるや放主都つみゆ川
ね岩や向ふあらつて岩の角
倒掛の岩のねも手とつ那
岩がくに倒つて仰ね岩の面
岩を下れあま里へ廻り
岩の大ヤ森の基盤擇擇ん
囁ん見て拂ひはめやあら
手ひつけ拂ひさよ我食
まくらへすすり拂ひ我食

風若

人

巴人
宜麦
年心
寥松
言来
委野
岩音
桑太

羨魚

文

あましけとくよよよの、祇金
をもみればとあく金あく角
我子易かぬ金も金ももの
なとあて心をせすとすゆび
うち若せておきうらう祇金

足袋
小春

を寄お見ひ草むふとんじ
ち足袋の下に生が踏のぬ
山火道樵まひ草ハシモツとつ節
風見浦の音をのせもうま
神んとすしやまねては下
ゆいトテシタクアハリトモ

十郎

被りてたきとすもトリーカ
有能く用いいちよむ毎日ト
桔子ハタリめ多くね小春ト
一リ屋とひ障て小春の那
枝葉を鳥ねえとひまつ
小ちせやからぬまつ春ト家
植木などをかまそりまつ小をひ
りひとすくせの少すくあ
林ある間のりうや不敵の花、
枇杷のむかひ葉落とし男小ト
つまくじ山茶花をひく宴を

石葵花
枇杷花
山茶花

霜葩
吐周
志丈
源空
桑太
植仙

月

年

連六忌

山本をやとのれはうむ花の墓
まんあや一さんほてまも忘
おりいみす山事石ハ久木木ト
お茶松
遠テ弓ヤ廓然アリ茶木大松
毛テ忌ヤテシテモ夜至もナシ
連六忌ヤ壁に船のキア破き也
達キテ弓ヤ人ノ足り五九角
我心トはくにあいナ夜ナ
ホチ度の十ねよ利テナシル也
十ねよ母アリ鬼トセモヒリカサ
カサ文牛
大江川阿郎

十夜

咲の月は星焚けたる十ねド

史人講
夷講

山本越

冬牡丹

山本講子あ房ナ知リと梅聲カサ江魚
ナモシテ秋衣着ナリ夷講
夷講脣の上ヌキ不有ド
フ一振し化のセリヨ夷講
夷講海風吹骨にあすリト
片羽シ急の下山シヤ夷講
七八石の桜新レヤ山本越
山本越
妻をもせまつてかみとアヤ冬牡丹
菅太

丁卯花

宜藜大
八
之信傳。降的命令。八
日也。也。也。也。也。也。也。也。
當。當。當。當。當。當。當。當。
情。情。情。情。情。情。情。情。
是。是。是。是。是。是。是。是。
班魚沒。象。象。象。象。象。象。象。
加人。加人。加人。加人。加人。加人。加人。
盡。盡。盡。盡。盡。盡。盡。盡。
搖。搖。搖。搖。搖。搖。搖。搖。
吸。吸。吸。吸。吸。吸。吸。吸。
二。二。二。二。二。二。二。二。
來。來。來。來。來。來。來。來。
先。先。先。先。先。先。先。先。
松。松。松。松。松。松。松。松。

三

六

1

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

1

三

三

三

1

卷之三

卷之三

枯野

枯野の楚カモクアリ たゞ風カモクアリ
山間ヤマミツに吹フき合ハシマル夕ハタケ暮カヨれ
都カモクアリにあまひつ葉カモク葉搖カモク
一日ヒトチ乃ノ帆迷カモクテ萬葉カモクアリ
萬葉搖カモク叶カモク性カモクを語カモクアリ
木カモクアリに楷カモクの材カモク乃ノ名稱カモクト
風カモクセ活カモク先カモクアリとぬ萬葉カモクアリ
木カモクアリや漸田カモクり木カモク月カモクアリ
木カモクアリの心カモクも風カモクもあせ因カモクアリ
木カモクアリや木カモクは吟カモク入カモクひそひそ松カモク
風カモクや風カモクアリ月カモクアリあせ因カモク
本カモク菊カモク野カモク也カモク口カモク有カモクてカモク小カモク皓カモク
風カモクの樹カモクナ松カモクアリ何カモクより多カモクキ
角門カモクアリ風カモク底カモクアリ風カモク日カモクアリ
こカモクレシ立カモク船カモクアリ岩カモクを漕カモクアリ
あれのきカモクくせカモクくせカモク山カモクのちカモク
風カモクアリ生カモクくせカモクくせカモク帆カモクアリ帆カモク
こカモクレシ立カモク船カモクアリ太カモク木カモクアリ毫カモク山カモク下カモク
風カモクアリ櫛カモクを削カモクアリ月カモク柳カモク御カモク良カモク柏カモク
あカモクらカモクアリ也カモク松カモクの上カモク大カモクサミ南山カモク本カモク
絶カモク朱カモクは松カモクアリてあり枯カモクがカモクい
人カモク通カモク來カモク林カモクいのければ枯カモクがカモクい古カモク

故カモク近カモク象カモク山カモク間カモク風カモクアリ夕カモク暮カモクれ度カモク至カモク北カモク
完カモク来カモク莎カモク笠カモク雪カモク使カモク卷カモク葉カモク太カモク蕙カモク東カモク此カモク因カモク楚カモク村カモク

蓼カモク太カモク

吐カモク月カモク

其風
梁秋杵
茅葛
月吐月
松寥
太極
仙周幸
頑志

成松
堂雷
心午
長嘯
翁嵬
雨篤
貞可
州翼
翠河
登吏

人乃林木大とハ思ハリ 枯せま
ゆくゆき日の向すリリ枯枝ゑ
冬枯れ風ゑまゆる峰の月
萬葉を搖枯れ里大アアム
枯くて叶えタ葉もあぐり室
三日月れ五つ子た枯せ小
牛の屋乃外ミ幕ぬ枯枝小
全かあふるは行く枯枝も
まくと忘れあく枯のは
月影の残るあく枯枝也ト

淋一さん 落進季枯れも
人ひうア不育てひやれつ 京
一里そ一而手速リリ枯枝ゑ
天氣の落也史ゆ。枯枝ゑ
もひう時赤地ひらの枯枝ゑ
日の西す。傘たむ枯枝ゑ
淋一きの黒セ枯枝ゑ 爪子す
石壁の壁持て本て枯枝ゑ
丹頂た人參枯枝ゑ 枯枝ゑ
牛の子せ根あめてわる枯枝ゑ

冬枯

お在の孔雀もあれ、モゼル
伐たゞけり。御木碑り。モゼル
モ枯る。落葉す。西つ原の田三反
ふも枯れ。日は新さよ橋。橋
モ枯れ。醫女の山もつは山
勝ち。モ枯れ。醫女の山もつは山
勝ち。天の川あへぬ。めき。まう
り。勝。新刻。御の。まう
を。おや人。幅。まう。け
まう。おとよた。まう。山の後
連

寒

滿良
吏登
月守
班玉
水二
二
蘭
卷

櫛

界

賴

櫛。手拂て。アラモチ。モロコシ。
櫛。ウカヤ。君在ね。山刀。岩水。
埋木。モモ。モモ。櫛。大。左。株。
我門。ト。モ。あく。モ。櫛。ア。ト。
影。内。や。ゆ。モ。モ。モ。櫛。の。灰。
十月。を。絶。四。角。と。れ。あ。ん。
考。去。福。者。ア。ア。リ。櫛。と。け。
御。く。モ。セ。絆。の。あ。い。ハ。風。は。う。
ゆ。け。で。う。か。う。ま。の。友。斗。り。
絆。け。や。ん。う。う。う。う。考。の。上。サ。
祖。東。

宿真引

経の本佛もあらずあくべる

大江丸

ゑみきをお真の大まきひいづ
三井の陸までアリ人お無川

氷花

散紅葉

室未

細代守

太夢

帆船は五葉ちの近處か
がく溝で何ハキシヨウちの五葉
を石ハ母せやこちもえも
セワラのあれくや細代守

太江丸

セワラの子玉傳もく丸細代守

未達

井菜讀

中ノア壁ノ内に仰る事
世が少と思ふても細代守
湯枕と足枕をめぐらす
さあとのよせて老松細代守
洩月ふる幕をあたへる事
あゝう木ややししくと朽る事
黒々よもよもよもよも草の桶

案松
貴之
沙翁
年心

草せ草屋の新う書のあらわ
座び尼のまうすはくまか清

ひつけ
沙清の歯は遠西の男う耶
頭巾

高志

豪太

冬籠

竹林のあふくれてあゆうる
波やゆりゆづとあせん
あよきくとひげのたうさ津海
まぬ人のりふと月よだつひや
おもひきて月よやどもと
火以れもいづけよをこす
羽鳥もすゑよふあおき
波極り波をうちりきら
櫻もおかねをかきを
多きもよははうと咲きり

青牛
月泉

リホトシと仲一才と冬経
少別を甚とせめりとあせ
すばとてゆるがくとくと
葉かくてゆるりとくとく
まちとお風とくとくとく
みくとせめりと林とくとく
がくとせめりと山とくとく
字はせたもく生てを名
菜細ふせりとくとくとくとく
多花落葉と佛光とくとく
アトミタヒトヒテ松子よなう
文足

蓼太

薰村

金井

蓼太

吐月

完束

蓼太

月泉

北阜

商成

三木

根泉

其夕

秋杵

月居

千鳥

我ニ猶モ日向りすまきらめ
を一もて月もあもしるを

さはくはなまおま行川瀬

をまよひの有終の浦をト

流すゆ盒すゆぢくと川をま

月を一又浦をまほうの達

ふをむすねにしきや一山

あよまな向やうと川をま

遯すけてま木風こむまを

川あやくおふすあく御

柳のゆく處すかうと

似すよれぬて写振の傷りあ

ふるよひ後まくらんかお麗

走もまゆすと後ぬ小夜傷

娘とよやじとお車にゆすすむと

友する用おひだして娘りひ

ナはうはせあくまくとすむと

経略のあすかは月をし

物を一お車を水とつと

水をしとくとあくまく

安うむせやまかと浮舟を

水鳥

曲肱

蓼太

完未

柳緑

津

月暮

文

荷笠

牛毛

東芽

六窓

蓼生

方壺

鹽車

蓼太

蓼太

蓼太

年心

里の手筋てあらひうるす
山眠りあらひ遊ふ汀りす
ふらひおはせ川すて松下
鴨もや若よおろい魂つ

木羽
月泉
吐月

黄昏れあらひ限りせう鴨
鴨あらひ四聲すゆめの砂
已う身を枝に鴨乃は採り
をくらよひおまわゑを草

松菅
柴立
大江丸
芳奴
吐月

日えねじ移り歌と舞と沙羅
砂のゆきおく迹ありあ風す
あまむかをひめひあまと
浮かびあ風す家とあひと
うたはせ泡やをよそに枝引
大根引生ふ寒きとれり

沙羅
吐月
因是
完来
月暮
我友

大根引

土蕪

冬月

妻人あらひくのとおみ
室白ひかくとおとおみ卵
文子有機の本草書のまづ
波多野在まわん冬の月

寥松

大江丸

普成

寥松

海角

吳雪

烏山

蛟牛

象

鴟

鷹

鳩

阿

之

深

青朝

鯉

雷堂

久能

雁

三鵠

系九

赤

梅堂

一鷺

曉

長

冬之月人毛毛あれて瘦ねり
毛の月とすくさ木つるや
毛を出でてとむすあやう経
じこさて水流はりあけ月
遙まじてお望みさんを月
絶えまじくしてあめ夕ねづ
みの月嘆み鳥の花秋ノ那
かくもくれ大哉其しきの月
季のねや月のあはあい
天井のねほほせきめ月
月あくはなれし月

林林

故故

机柱のかよよかよよか月
見る人すゑりぬ病せそり月
空すてかとすてかとすて月
ひとてハスミキみとみとみと月
空の月みとみとみとみと
ひとみとみとみとれつを月
ひとみとみとみとあゆ月
ひとみとみとみとみと月
空の月みとみとみとみと

詩書

十月のさかんとくさんかく山

完未

みう田

木の枝下に葉を拂ひてみ田うる
さむけ一枝も見えずと白い水

吐

月

枯芦

素夕

枯柳

太

枯茅セリセガシタリ余年
枯茅セリセガシタリ余年

文

枯くにて月を柳の浅井と鳥
かと我魚は浮舟と見柳

太

丁菜

北

沈衣

太

枯てうきをす見ゆ柳
ももの見透て水モ枯柳
たまひと死生半庵の丁菜
をせめぬ休の竹モ丁菜

太

今、此を嘉りて名を取る。ナク朽木

木

李子供す新あつて故あり
キ

守

子ほれ候名をねよ故あら

月

うち掛上袖や紙衣とゆふ時

班

玉ふ人せぬ茅の枯柳よ壁紙衣

象

納豆

心

納豆も茅あつてハ富ア左いも

午

清かの月と暮れ河内奈良

思

十一月

霜

木の霜やつもせ善味房

嵐雪

きくわやふちく勝の至り
かくの津よもくまのあ
御代木よみゆりすゑむと
御をめら後村をあはのあ
風くははうれの豆川を
月よもにゆびひのとあく鳥
けしと笑ふとしもれの月
ちくの後すよすすゑ夜不
夜のあえのゆりくもすと
桃灯よ幸の夜すゑおと
竹とすよすよすよすよすよ

月をうて清成をしる月の歌
より太の三度ニ萬葉を柳
人くの星をさんあすねの青牛
かをととあすねの柳
晴月の三度を門りる柳
皇夾の寒のかくとあね
海陽りをひつてあるの月
ほのとみ度記一接の寒の月
ゑくとくと水うる葉を盡
寒の福宣あさき水を盡

丹頂の朝日とく冬玉
寛沖の松主かす矢玉

吐月

寥松

支水

下野の朝日はす玉玉
鷹の小宿わいやくまむ

路恭

蓼太

班象

蓼主

君山

月棠

用をせ小宿わいやくまむ
心をきらとまほす葉食
是も又葉食す麻丸葉食

吐月

忙牛

菅雅

寥松

蓼太

吐月

寥大

鳴臘

連丈

寒梅

曆賣
鷦鷯

あくひ在のれ衣えやれ
人共に雪つふも人のよこり
唐う里と葉日と葉小り
海舗に葉はるは鷦鷯
石ぬすすす抱持をせんとまぬ
みそまぬ極持人とせりり
蓬草の山もみをれえせきぬ
室も病やをひくふ花の上
行林もまくいづれをせせき
程程の時もく都セ室の林

信中

杉羽

暎

玄樹やアレルイ
松と松
冬の日も月も秋も

雪武

兔象

班蓼太

吐月

午心

大江托

吏登

漁文

普成

配摩

月巢

蓼太

大江九

魚沒

沙羅

鷹狩

水仙

朱雀

少仙や多喜を以て嘆也も悲一
少仙や多喜中より也二情

喜也や花咲也三ハ高笑

助喜也四ハ高笑也五ハ高笑也

六ハ川字跡中以て高笑也七

枝葉也八葉也九叶也十叶也

十一叶也十二叶也十三叶也

顔見世

少仙や氣とて以てもよし。——三良配摩

普成

川棠

吐月

花笑

蓼太

大江九

魚沒

水鶴

沙羅

蓼太

鷺狩

鷺

顔見世

山市

一鷺

其時雨

鯨

鯨舞

完来

豪山

了浦

鷺

車揚子海りちきせりけ縄子を
船をもとへるの葉子くらう葉
葉の花や蘿向山海きすれ川
葉あらわや一畝の葉ハ逢う閑
葉の花せ日小能うて古跡う歎

茶花

茶花

冬楓

麥松

社月

冬木立

宦能

冬川

維迪

寒砧離

豪山

雜冬

午心

楓

班象

楓り竹子大さき冬山

冰花

楓くわくわ葉子はなり冬山

太

鬢置

楓はまひだ根山子木鳴り

月

大江丸
川や足

明象

氷柱

せなまきや四よ抱せよ。氷のね
常とまらぬ。金はすくにま
みをとめを先玉あひをとゆえ
氷柱をかくへ。今日は氷柱をま
まく。氷柱のせ經あひ。おれど
立つ間隔わきて。かう角
めう脚のせかくよ。草う失
ち。夜中やめの上れ。移小舟
浪をあて。氷手取や。魚の店
松川や。もの上れ。おれう

月 菊村
萬葉太

月 戴季

も

雪

おはまきる。日や水乃朝日向
門のき印と盤乃すし。うふ
あくまを大名やうり遠ひ
物手を尺木を。今あうねの雪
あ。あう文子あくまを。おひを
あくまを。よ。萬葉リヌ傳松井
大河を。人の様堅ハ。おの月
あくま。うそもくしをひよ
かくよ。入て。れか一。おの雪
降於て。五。雪のまよ。川
あくまを。先づ。糸乃松一本

山 村

月 菊村
萬葉太

月 菊村
萬葉太

月 桃隣
萬葉太

連太

吏登

萬葉太

ありやまふ新をくそおる
おつみをあむられをつみ
月

山城へもとまたひやをめま
李子春は五人がりせきれ事
勉生をもとれわづれをせし
降まへゆくはきや木のを
手てはまくさきてありをせえふき
おめうかにゆくをれ高士　最丹
月すかよきつお鳥ありすこまほ
ひかやねえ鶴あすねの内

お新改ややまくはくはけ
門のま行けりむする事し故改象
仮かすすおおきの文ノホ
大川を小川す二月柳
乾草くまもつてリテ墨筆を
あくと園うぶおせう東
あきキヌ角カの村上至忍
えまくまくあくらは一みえ
大江がれんがくはまくはせ
本丈
凌るおせらひあくらはせ

ぢりへへとくわんせん國の事

宣美

きのさるは遠あたとお乃生

生花

櫻あまくちは里の水をうり

武多

まを紙一都のあねあーに

五字

金の萬久ー紙を到ひて

千吉

大山の都の年下をとり

仙翁

おきあくまちおきをつね

月亮

をみの秋の聲もあすく空ひく

砂月

をみかあめへまよひと

三草

もととき假名ふきうれ

一峰

をとよひゆくよしむか

風

をとせよそこう行く、萩相子

東余

をとひテや様手てアマナ

月弓

をとせのきとすすてまひて

完每

お遠くととむわきまをだ

御半

おあはきとすむけほれの月

嘗能

度もハラモ持てよみがえ

を厚

おもときを持く時の名をば

活板

碑セと寄て處ましの店

而然

持ててよよがれおせま

次象

雪月やかよ出でて不子情

水花

荷笠

靈巖

神樂

を車川の船を廻るや里の大
きよあれよとよとおのを歌ひ
山風やをめぐらむれ
月も亦遙かに照るる
まくらのま路と霧
かくす舟檻の灯は太白しけ
正月は代へば今秋、牛鳴
西よねむ野高あり里
島はや橋うそとからく
旅せんと毛い一葉の里歌

杵乐女セ子歌うおお都セ

鉢扣

今か一まようそ一鉢扣き
すゞあよ例の歯ぬけの体か
男ノよとおおよう沐ちき
格もえて忽ち一鉢扣
寂よおお宗吉か一鉢扣
走逃てひさこ仕合をちだき
傘かくすの衣被を沐扣
鉢扣とす、靈やもちだき
模もとや省中林一き沐扣

年心

嵐立
吏毛
藁立
松柏
乙兜
司丸
吐月
砂月
案松

石花

下手もかく上手も見えり神打
もちたゞか御手引とすれど
身を持よ下站たゞくあせ神打
あまへん石花よかードひまみ
の様の落葉落葉根打乃様

寒菊

協ニ確のつめまゝ亦今下うま
十二月

茎

まきや春うまセ一忍の先

秋津

寒念佛

白麻

正月

天荷

蓼太

玉庵

瞼八

猿ハヤ喜小了新引ト
猿ハヤ粥の仕仕も飯供子

秋色

眠江

又二門うさうさう寒念佛

雪珊瑚

完未

子文

猿ハヤれ以てアレルモリト

猿マ

暁ハヤ胡而不ミ味煙の光一束

白川

林丈

佛名

佛名セナムシテナムシモ花の枝
仏名セナムシテナムシモ花の枝

はめ心

文三

節季候

仏名セ神の私ヒヨモチの緋
仏名セ神の私ヒヨモチの緋

松林

蓮琴

年暮春

仏名セモモリテナムシモ花の枝
仏名セモモリテナムシモ花の枝

不亨

喜多

追儺

有川セモモリセヘノ月リツ
ち年暮春陽田の年暮春モモリセ

月

沙羅

年暮

厄拂シハ隈モ月ホラミ
莫ニセ聖ニヒキスルモ月ホラミ

東鳥

蓼太

師走

諸ノモモリモ小拂てみモシ系
下後モおほくモシテ師走ト

完未

都英

山伏のモモリモアミシムト
下後モおほくモシテ師走ト

寥雪

嵐松

嘗モのモモリモ小拂てみモシ系

松風サ世ニミセハメシモト

蓼太

急ト降シモセハメシモト

素丸

月より小祥又より日光より都

累

詠はる柳家内もふ南

月

淨破利の水よりはみを下

日向

空の日小傘す下ハ陽も下

紫

うき乞に育て食ひ師も下

故班

わ松の上枝が水をめきあ

象

大象を育て持て所を下

馬

吹づきやす月の月ねう

光

納豆配糸手川と拂ひあ

沙

も拂ひ竹を伐りた之は

宣

も拂ひはて尺の扇にせり

妻

も拂ひのりて扇ひりかわ

大江

拂ひのりて却拂ひも拂ひ

狂

も拂ひまくらと達ひすの門

班

も拂ひかくらと一石

象

拂せ長力あれ一山

心

拂ひをうはまちいせの市

尚

のうひに拂ひおを拂ひ偶界

義

今年何ぞ拂ひおを拂ひ

吐

花う拂ひおを拂ひおを拂ひ

月

系枝あり一形乞石くも

寧

衣配

年市

幼豆配
煤掃

拂ひのりて扇ひりかわ
拂ひのりて却拂ひも拂ひ
も拂ひまくらと達ひすの門
も拂ひかくらと一石

拂せ長力あれ一山
拂ひをうはまちいせの市
のうひに拂ひおを拂ひ偶界
今年何ぞ拂ひおを拂ひ

尚義 吐月 荘丹 完来
蓼太 寧松 玉宇

年志

傳もせよ、其のれだうお記
記りおぬちうきくじまきり
おまにほ年あ井ハ後ト家
ニおとハ子ふをひくま一空
みとすみれ様見て出で一暮
アリされと繋れかの夜ハ西
年もとまわすと小松は
病ぬるに在毛ハモー重三
毛をやめ男をよし乍一忘
女大を基盤て活生ヤ一忘
まうね風をうつて其生發

信中

柳莊

吐月

月守

蓼太

夏炉

班泉

宜麦

吐月

餅搗

餅つきや多かり立て三井の邊
アリノ内底ハ今一餅の向

升古

行年

りとやとせこもれの松よ落
ゆ若くありとや吹拂あ
あく年や職人町せおのち
りやうりやう持よき年

普成
蓼太
午心
物我

年暮

猿猴の年よまきや七年の書
あらうハ年よまきや七年の書
持小本の又よまきや七年の書

嵐雪

史豈

完未

蓼太

吐月

は是儀のうむつゝや年せ考
ひりめあへてよやとくのれ
小娘のねくまやせーりくき
西行ちつちりんと年せ考
細の葉あくつよよせのれ
かねむすにねきー年の考
まのうれ車ハ多羽よゆう

寥松其桂蓮佐普成完未

大晦日

午心

みくろ子は振舞事ーちゆ
今あれぞ拂ふ本せー大世日
きかくの庵夷ー大三十日

任柳底風

終年

不騫

岡見

岡くすく味つゝ御ひぬ小家の門
哉早めあよむよふるをし山ー驚

嵐雪

和布刈

宝船

二艘よハ欲吉井ありれかまづぬ

吐月

卦の代よ優すとあすかーたゞ船

完未

年尾混交

梅一さんスミモトのうと木ト
とくのま山と降ふ伊豆タ

蓼太心

お餅の事中あべの宿
方からうそふ灯とアーリー

セミナリトモテアスコロ

龜二
魚沒

極角せ門につく在御る
是ふ封きる年は小剝のま
風流と字前とあるめりも

寥松
了輔

蓼太

圓具

圓具

鞍部

沙羅

鷹車

酒をかむ高麗川村念佛

寥松

我が朝歌

上曾を立ちます四十日もあつて
この尾久といふ里あら立川乃
御よ持つてからまいとまく白面
とも蒲次ちあらぬまほを冠す
心ちするむ本傳ふるもあらす
うつりあらむれいもひすをを
まくふみちあらそじ地なまく

いつの日々を心にござるが爲めでうれり
まとも耕さるとアーヴナムアラ
朱氏の名アラスラニアムモアラ
和名前アラスラニアモアラ
人のみあたまアラスラトおさあす
おのう藏アラスラゲ
おもじるモアラスラアムモアラ
川アラスラモアラスラアムモアラ

ボアアモアラスラアムモアラスラ
いうてあるもアキモアラスラ
ホアアモアラスラアムモアラスラ
を助けてアラスラアムモアラスラ
人アラモアラモアラスラアムモアラスラ
掌アラモアラスラアムモアラスラ

まくまをよふて、へしを
え化丁印と秋七月の字
なまう

雪中庵文集



明治廿一年九月求版

故人

編輯人

青齋顧庵了翁

著行人

目黒十郎

新潟縣平民

東京

吉志郡長岡表四町十九番地

全

支店

京橋區南傳馬町二丁目五番地

店

發兌所

